

# 令和2年度 東京都北区立豊川小学校 学校経営計画

校長 市川 由紀絵

## 1 目指す学校

### 〈教育目標〉

児童一人一人が、将来にわたって、夢や希望をもちながら、学び続けようとする力の育成に努める。

- たくましい子（心と体の健康づくりに努める人となる）
- あかるい子（豊かな感性を磨き、正直で真面目な人となる）
- かんがえる子（自己の個性や可能性を伸ばし、生き甲斐を求めて将来を切り拓いていく人となる）
- やさしい子（他の人との共生を図る思いやりのある人となる）

### (1) 児童が笑顔で生き生きと学ぶ学校

- ・児童が日々の学校生活の中に充実感をもち、自己有用感・自己肯定感を高め、将来への夢や希望をもてる。
- ・学習活動を通して、学ぶ楽しさ・深める喜びを実感できる。
- ・困難に立ち向かう逞しさと思いやりの心を育む。
- ・児童一人一人がよさや可能性を十分に発揮し、互いに認め合い高め合う。

### (2) 教職員がやりがいをもって働く学校

- ・深い使命感と熱意、児童に対する愛情をもって教育にあたる。
- ・教育のプロとして常に研鑽に励み、厳正に服務にあたる。
- ・教職員が児童から学び、児童と共に成長を続ける。
- ・教職員一人一人がもてる力を十分に発揮し、和を大切に協働して教育活動に取り組む。

### (3) 保護者が通わせてよかったと思える学校

- ・保護者が我が子の成長を実感できる。
- ・保護者が我が子を安心して通わせ、保護者から信頼を得る。
- ・学校と家庭が協力して児童の育成にあたる。

### (4) 地域と共に歩む学校

- ・地域の児童を地域と共に育み、地域に貢献する児童を育てる。
- ・地域の人材や地域の教材を活用し、地域のよさを児童が感じる。
- ・教職員や保護者が地域行事に進んで参加し、地域に貢献する。

## 2 中期的目標と方策（令和2年度から5年計画）

### (1) 児童の育成

○日々の授業の質の向上をめざし、知・徳・体のバランスのとれた児童を育成する。

【北区基礎・基本の定着度調査で、各学年の国語と算数の平均正答率の標準スコアを2ポイント以上あげ、全学年が全国値を上回るようにする。】

R元年度 2年（現3年）：国語 52.4 算数 52.5      3年（現4年）：国語 52.4 算数 52.3  
4年（現5年）：国語 51.7 算数 52.6      5年（現6年）：国語 49.6 算数 47.1

〈方策〉

- ・主体的・対話的で深い学びを通して、各教科、各単元で身に付けさせたい資質・能力を着実に身に付けさせる。

- ・新聞を学習に活用し、NIE タイムを中心とした日常化を図り、総合的な読解力や表現力を高める。
- ・生命尊重についての指導に重点をおき、自己有用感・自己肯定感を高め、自他共に大切にする心情を育て、実践する。
- ・自分の体や健康に関心を持ち、主体的に運動に取り組む活動や健康教育を通し、体力の向上を図る。
- ・特別支援教育を充実させ、個別の配慮を要する児童を支援し、安定した学校生活をおくれるようにする。

## (2) 教員の育成

○学び続ける教師集団を作り、互いに啓発し合いながら学校の教育力を高める。

【管理職選考、4級職選考、主任教諭選考への受験を啓発し、キャリアに応じた資質向上を図る。】

〈方策〉

- ・職層に応じた役割をもたせ、育成目標を明確にし、組織的に人材育成に取り組む。
- ・OJTを通して、互いに学び合い、教員同士が信頼をもって教育活動にあたる基盤を作る。
- ・教員の特性を伸ばし、力を発揮できる分掌に配置し、教員一人一人がやりがいを感じながら職務にあたることで、学校全体の教育力を高める。

## (3) 学校運営

○学校の教育活動の透明性を図り、保護者や地域の理解と信頼を高める。

【保護者評価「豊川小に通わせてよかった」の回答率をあげる】

R元年度：80.6%（アンケート回収率 87.9%）→90%（アンケート回収率 90%以上）

〈方策〉

- ・学校評価を適切に実施、公表し、教育活動に確実に反映させる。
- ・学校評議員会の充実を図る。
- ・学校だより、ホームページ等広報活動を充実させる。
- ・学校公開、個人面談、保護者会を通して、教育活動への理解を図る。
- ・地域に開かれた学校をめざし、地域と連携した教育活動を展開する。

# 3 今年度の取組目標と方策

## (1) 教育活動の目標と方策

### ①「学ぶ楽しさ」「深める喜び」を味わえる学習指導の充実

児童の主体的・対話的で深い学びを通し、各教科、各単元で身に付けさせたい資質・能力を確実に身に付けられるよう、日々授業改善を行う。

〈方策〉

- 児童の主体的な学びになるよう重点をおき、毎時間の授業の質の向上を図る。（学習の流れがわかる板書、発問の精選、指導と評価の一体化によるねらいの達成）
- 総合的な学習の時間及び生活科を中心としたカリキュラム・マネジメントを行い、他教科との関連を図ることで、深い学びにつなげる。
- 新聞を活用した学習を行い、読解力や表現力の向上をめざす。隔週（金）の朝の時間にNIEタイムを実施する。
- （月）（火）（金）の昼の「ぐんぐんタイム」で、1～4年の読み・書き・計算を主とした基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。また、学力フォローアップ教室を機能させ、つまづきのある3～6年生児童に、個に応じた補習を行う。
- 日常的にICT機器を活用した授業を展開する。また、学校図書館指導員と連携し学校図書館を効果的に活用し、情報活用能力を育成する。
- 発達段階に応じたプログラミング教育を行い、論理的思考力を育成する。

- 学校ビオトープや栽培活動を通じた環境学習や、豊島の地域理解や地域の教育力を活用した学習を系統的・計画的に行い、充実を図る。
- 学力パワーアップ講師、理科支援員等を効果的に活用し個に応じた指導を工夫する。
- 漢字検定、英語検定を希望者に実施する。

## ②豊かな心と健やかな体を育てる指導の充実

未来を生きぬくためのしなやかな心とたくましい体を育てるために、道徳教育・特別活動・生活指導・健康教育の充実を図る。

〈方策〉

- 「特別の教科 道徳」の確実な実施と、教育活動全体を通して道徳性を養う。特に、生命尊重についての指導に重点をおき、様々な機会をとらえて指導をする。
- 児童会を中心にした行事やフレンズ班（縦割り班）活動を計画的に行い、実践を通して思いやりの心や自己肯定感を育む。
- 児童一人一人に役割をもたせ、責任をもって委員会活動や係活動等に取り組みさせる。
- 自らの健康に関心をもち、心身ともに健康な生活を送るために、すすんで運動に親しみ、食育の充実を図り、望ましい生活習慣を身に付けられるよう、健康教育を推進する。
- 家庭と連携し、基本的な生活習慣の着実な定着を図る。
- いじめ、不登校、問題行動の早期発見に向けて、ふれあい月間のアンケート（年3回）、Q-Uテスト（年2回）の分析を全校で共通理解し、効果的な活用を図る。
- スクールカウンセラーを活用し、校内教育相談体制を充実させる。

## ③個のニーズに応じた特別支援教育の充実

児童理解を深め、児童がかかえる課題の改善をめざし、特別支援学級の教員や巡回指導教員の専門性を生かし、校内の特別支援教育体制の充実を図る。

〈方策〉

- インクルーシブ教育体制を構築し、誰にとっても安心して学べる学習環境を目指す。
- 特別支援学級との交流及び共同学習を充実させる。互いのよさや特性を理解し合い、共に学ぶよさを児童が実感できるようにする。
- 学校生活支援シート、連携型個別指導計画を作成、活用し、家庭と連携を図りながら、児童の課題改善に向けた指導の充実を図る。
- 個別の支援が必要な児童について、スクールカウンセラーや特別支援教室専門員を活用し、特別支援コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させる。巡回指導教員と担任との連携を図り、特別支援教室での指導が通常学級で効果を発揮できるようにする。

## ④保護者、地域と連携し、開かれた学校を目指す

保護者・地域に学校の教育活動を積極的に発信し、理解を深め協力体制と連携を確かなものとする。

〈方策〉

- 保護者評価や学校関係者評価を実施し、改善点を教育活動に反映させる。
- 学校だより、学校HP等で教育活動を積極的に発信する。
- スクールコーディネーターを通し、地域人材を積極的に活用する。

## ⑤人材育成

教員として自己の研鑽に励むとともに、組織の一員として力を発揮し、自身の立てた目標に対し満足感・充実感をもって到達できる教職員を増やす。

〈方策〉

- 自己申告面接（年3回）を通して、課題を明確にし、適切に評価し、教職員の意欲を高める。
- 毎週の週案を通して、毎時間のねらいを明確にし、着実に実践できるよう指導する。
- 教育公務員としての自覚を高める服務事故防止研修や体罰防止研修を計画的に行う。
- 参観授業や校内研究授業の事前授業等を通して、OJTで若手教員の指導力を育成する。

- 校内研究を通し、教員同士が互いに学び合い高め合う体制を構築する。
- 明桜中サブファミリーによる研究授業、授業交流、行事交流に積極的に取り組み、小中一貫教育を推進する。
- 会議の精選に努め、休憩時間を確保し、放課後の時間を教材研究等にあてられるようにする。
- 18時までの退勤を心がけ、最終退勤時刻を20時とし、教員の在校時間が長くないように確認する。

## (2) 重点目標と方策

### ①新型コロナウイルス感染症対策への校内の対応

- 生活指導部を中心に「新型コロナウイルス感染症対策委員会」（コロナ対策委員会）を設置し、校内の感染症対策及び健康管理について検討し提案する。全校で共通理解し、児童の安全・健康に関する課題発見・課題解決に努める。
- 児童自らが自身の健康安全に関心を持ち、主体的に実践できるよう、コロナウイルスについての資料を作成し、意識啓発を高める。
- 学校だよりや保健だより等を通じて、家庭に適時に情報を発信し、感染症予防のための理解と協力を求める。
- 児童の安全に十分配慮した上で、より充実した教育活動が行えるよう、指導計画の見直しを進め、授業時数の確保に努める。

#### 【児童アンケート】

「健康に気を付けて生活している」と答える児童を90%以上にする。

### ②教員の指導力の向上

- 校内研究を通して、国語科の書くこと、読むことの指導の充実を図る。
- 低・中・高・特支ごとに研究授業を行い、授業や指導の質の向上を図り、互いに学び合う機会をもつ。
- 教員が自身の身に付けるべき力や求められる役割に応じて目標を明確にし、自己申告書に記載し、目標達成のための具体的な手立てにそって、OJTや自己啓発等を通して実現できるようにする。自己申告面接、授業観察を通して、管理職が適切に評価する。

#### 【学校評価（内部評価）】

「やりがいをもって働いている」と答える教員を90%以上にする。

#### 【児童アンケート】

「授業が楽しい」と答える児童を90%以上にする。

### ③自分のよさを生かし、自信をもって生きる児童の育成

- 様々な機会をとらえて自他を大切にすることを育む。（校長講話、道徳、特別活動等）
- 創立145周年を記念する開校記念集会を児童会中心に実施し、愛校心を深める。学校の歴史を学ぶ機会をもち、豊川小の児童であることに誇りをもてるようにする。
- 自分の作品を大切に、自分の思いを自信をもって表現できる展覧会を実施する。
- 様々なコンクールに積極的に挑戦させ、多くの児童が表彰される機会をもつ。（比べて読もう新聞コンクール等）
- 児童の成長を家庭と共有できるようにする。（学校だより・学年だより・学級だより、保護者面談等）

#### 【児童アンケート】

「学校生活が楽しい」と答える児童を80%以上にする。

#### 【保護者アンケート】

「楽しく元気に学校生活を送っている」と答える保護者を80%以上にする。